

積水化学グループのCSRレポートについて

2009.01.29
積水化学工業(株)
CSR部

積水化学工業株式会社概要 (2008年3月末)

1. 設立 1947年 3月 3日
2. 資本金 1,000億 200万円
3. 従業員数 18,907人 (連結ベース)
4. 売上高 9,586億円 (連結ベース)
5. 営業利益 430億円 (連結ベース)
6. 事業

住宅事業
環境・ライフライン事業
高機能プラスチック事業

化学品関連

・合わせガラス用中間膜
・接着剤
・高機能樹脂



医療関連

・真空採血管
・テープ
・医薬品
・診断薬



管工機材関連

・パイプ
・バルブ
・真空採血管
・ライニング鋼管
・マス
・合成木材



住宅資材関連

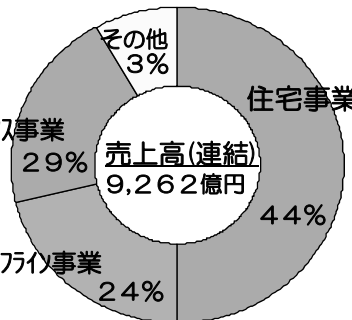
・建材
・浴室ユニット



フィルム関連

・テープ
・発泡樹脂
・プラスチック
・工業用精密部品
・フィルム
・マキジフィルム

高機能プラスチック事業



木質系ユニット住宅
「ツューホーム」

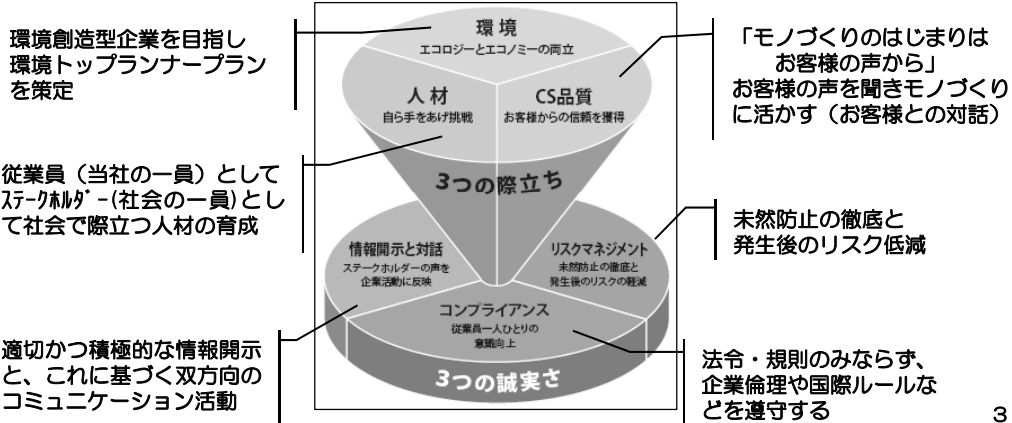


積水化学グループのCSRとは

<積水化学グループのCSR（企業の社会的責任）>

「環境」「CS品質」「人材」の3つで“際立ち”、
企業理念の実現へ向け、事業を通じて社会に貢献する

CSRの取り組みの基盤をなす、コンプライアンス・リスクマネジメント・情報開示と対話を
3つの“誠実さ”と捉え、経営を磐石なものにする



情報開示の基本スタンス

- あらゆるステークホルダーに対し、
積水化学の取り組みを多面的に報告し、理解して貰う
- すべての情報（マイナス情報も含め）をできるだけ定量的に開示する

CSRレポートの想定読者

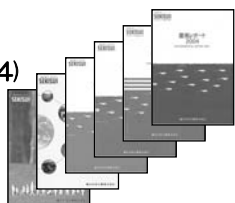
お客様、取引先、株主・投資家、事業周辺の近隣在住者、
CSR・環境関係の専門家・学識経験者、NPO/NGO、
教育機関・学生、従業員 など

<実際の配布先（用途）>

- 従業員（CSR取り組みの浸透）
- お客様、取引先（取り組みの説明、信頼向上）
- 株主、投資家（取り組みの説明、信頼向上）
- CSR/環境専門家（当社への評価）
- 学生への配布（就職活動）
- 講演会、イベント、工場見学など

レポートの継続的な発行 「環境報告」から「CSR報告へ」

環境レポート
(1999~2004)



2005年度~
CSR報告へ



CSRレポート

報告内容：環境

報告内容： CSR
(環境、CS品質、人材、等)

アニュアルレポートとセットで
事業活動の情報を開示

発行時期：6月末（株主総会から配布）

発行部数：4万部（2008年版の場合）

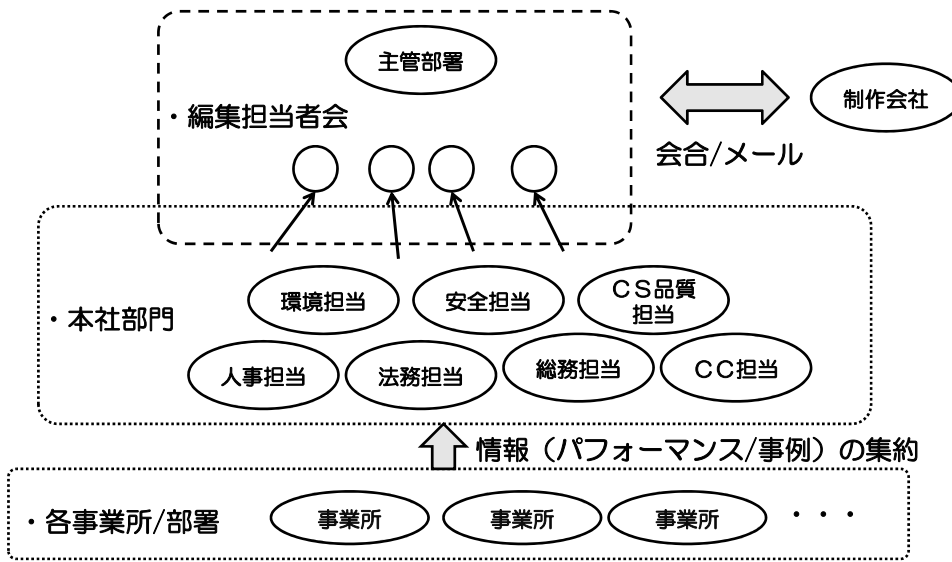
5

積水化学グループ CSRレポートの特徴

- ・積水化学グループのCSRの考え方に基づいた章構成
- ・網羅的な情報開示（特に環境面）
 - 専門家の評価にも答えうる情報の量と質
- ・読みやすさへの配慮
 - 多量のデータでありながらページ数を抑える
- ・その年に特に注力した課題を特集ページに
 - 「次世代と地球環境」（2008年のテーマ）
- ・第三者審査による開示情報の信頼性確保
 - 環境面に加え社会性データに対しても（2008年～）

6

作成体制（組織体制、外部依頼状況）



7

開示情報の信頼性向上にむけて

第三者審査の効果

- 1) 信頼性・客観性のあるデータの開示へ
定性的ではなく定量的な開示
開示情報の算定根拠の明確化
- 2) “社内”視点から“社会”の視点へ
- 3) すべての分野でPDCAを回すこと重要性認識
(特に社会性の分野に関しても今後は必須)

- ・ 社外からの評価向上に役立てる
- ・ CSR経営の進化に向け社内の意識変革を促す

出せるものは出す
数値で出す

2008年度より第三者審査を社会性データにまで拡大

～2004	2005	2006	2007	2008
環境レポート	環境・社会報告書		CSRレポート	
	環境取り組みへの意見			環境、社会性情報の審査
	環境情報（パフォーマンス）の審査			

8

第三者審査受審項目



環境	環境パフォーマンスデータほぼ全て (環境監査、環境業績評価、土壌汚染、ISO14001 認証取得事業所等を除く)
CS品質	お客様相談室入電・クレーム件数、CATミーティング、モノづくり革新指標、CSリーダープログラム、CS品質経営指標のテーマ例と達成度
人材	新卒離職率、公募制度利用者数、キャリア研修受講者数、公募・選択型研修受講者数、従業員アンケート結果、障害者雇用率、エリア別従業員数、労働災害件数(工場、施工、海外)、通勤災害、疾病長欠、安全衛生防災コスト(費用、投資)
コンプライアンス	社内通報制度「SCAN」通報内容の内訳
リスクマネジメント	
情報開示と対話	
社会貢献・自然保護	寄付総額と内訳

9

ステークホルダー・読者からの反応・評価

・意見収集方法

Webによる意見投稿・メール : すべての読者
(挟み込みアンケートは2006年で中止)

直接対話 : 専門家、評価機関

説明・意見交換会 : (社内) 従業員



読者からの意見(特に一般の方からは)集めにくい(アンケート方式での限界)
意見集約を集めるための仕組み・取り組みが必要

第11回環境コミュニケーション大賞(環境省・財団法人地球・人間環境フォーラム)

環境報告書部門優秀賞 『CSRレポート2007』

<評価コメント 抜粋>

- ・各活動内容の網羅性も高く、きめ細かく充実した報告書になっている
- ・社会のニーズに応えた製品開発・提供によって社会に貢献しようとする姿勢が伝わってくる
- ・環境トップランナープランを策定し、当年実績を分析し、翌年目標を提示している
- ・過去の経年変化もわかりやすく、データ編を活用し、豊富な情報を開示しつつページ数をおさえ、読みやすい報告書をめざしている
- ・マイナス情報の開示にも取り組んでいる点も評価できる

10